

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ProgrammingDay横川		
○保護者評価実施期間	2024年12月28日		2025年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	86	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		2025年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ニーズの高い個別対応を中心に療育ができること。	職員配置の工夫、利用の案内の方法を工夫している。利用日の心身の状況に合わせて活動内容を調整・変更する。	個別支援計画書の共有を行い、チームで支援することを実践する。
2	支援計画に沿った支援内容の提案が一人一人に合わせてできること。	普段の利用時からしっかり観察し、必要に応じて送迎時に保護者とお話しをすることで様子等を共有しながら療育を行う。	療育スキルの向上(所持している専門性の向上等)
3	利用児童・その家族が相談しやすい等、個別に柔軟な対応ができること。	普段の利用時からしっかり観察し、必要に応じて送迎時に保護者とお話しをしている。気になる事があれば職員からお声がけしている。	コミュニケーションを意識して児童・その家族と関係性を構築・信頼関係を築く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	換気対策	換気回数の少なさ。昼食後等、デイルーム内で食事をするので食べ物のおいが籠っていることが考えられる。	日に数回は窓を開けて換気を行うようにする。
2	療育に関する知識のばらつき	色々な専門性や得意分野のある職員なので、それが利用児童1人1人に合わせた活動内容の広がりや深い内容の提供ができる一方で、「療育」という意味では職員の自己研鑽に任せている部分があると思われる。	研修の方法の工夫を行う。「スーパービジョン」を取り入れる。
3	情報の伝達方法(LINEの使用の提案があった)	他の事業所がLINE等を使っているが、メールと電話・対面が主な伝達ツールのため、時代に合っていないと考えられる。	今後、利用に関する事務的なことの管理が変更される予定。